

中間支援活動助成(基本)事業実績報告

団体名	特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター	代表者名	理事長 長谷川計二
事業名	NPOや地縁団体の事務力アップ支援事業		

< 事業実施実績 >

	相談業務	ネットワークの構築 ・ 情報提供	人材育成 (講座開設等)	書類作成指導	その他 (調査研究等)
R4 実績	293	80	10	35	10
R5 計画	-	-	講座 2	-	-
R5 実績	323	116	34	45	26

< 効果と成果 >

場とつながりの研究センターは「意欲する人」が集う場を作ることを目的に立ち上げた団体で、関心をもつプロジェクトにスタッフや支援者が集まってくる場づくりに取り組んでいる。近年、子ども・若者支援や外国人支援といったテーマにおいてスタッフ・ボランティアが集まっており、組織・プロジェクトの厚みが増していることを実感している。すべての活動において「当事者の声を聴く」ことを軸に取り組んでおり、被支援者がいつまでもその地位にいるのではなく支援者側に回るような「役割シャッフル」を通して主体性を育み、有力な運営スタッフに育つなど、キャリア形成の視点からNPOとの関わり方を提案できているように考えている。

NPO相談支援事業では、民設民営の強みを活かし、アウトリーチ支援をはじめ団体の実情に合わせたオーダーメイドの支援に取り組んできた。NPOを「社会参加の器」として捉え、寄付・助成金やボランティアなどさまざまな社会資源を集めること・参加の方法についての支援を試行・実践してきた。他のスタッフを雇用する予算が十分でない中で、雇用以外の形で支援のあり方を広める取り組みを行ってきた。

< 今後の展望 >

NPO支援の意義・役割が全国的にぼやけている感覚を持っており、単につなぐ・紹介する・情報を提供するのではなく、何をそこから生み出そうとしているのか、本当の解決の状態とはなにか、継続的な関与のあり方も含めて支援のあり方が問われているように感じている。とくに、支援団体もつ権力性により謙虚であり続け、一人ひとりの声を聞きあえる組織づくり・文化形成の必要性を感じており、NPO法人アカツキ@福岡が提案する「振り返りプログラム」なども参考にしながら、当法人がここ10年で培ってきた人材育成プログラムの次のステップを提案していく時期に来たものと感じている。

地域活動やNPOの担い手不足の課題も解消されることはないが、若者など「なにかやりたい」層は一定数いるものと感じている。参加への動機や背景のちがいを尊重しつつ、負担感につながらないような任意団体の運営の仕方を提案していきたい(自治会、PTAなども)。

今期はマルチステイクホルダーによる場がほとんど作れなかったので、次年度は取り組みたい。

< 収支決算書 >

(収入)

項 目	金 額 (円)
中間支援活動助成金	500,000
参加費	13,000
自己資金	40,321
合計	553,321

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経 費	人件費	336,000	325,000
	通信運搬費	50,158	50,000
	謝金 * 外部対象	45,000	45,000
	その他 (印刷費等)	92,233	80,000
	小 計	523,391	500,000
間接経費 (一般管理費)		29,930	0
合 計		553,321	500,000